

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第 12 号



◀撮影では皆さんの笑顔が並びました。井土寿会を含む仙台市老人クラブ連合会六郷地区老連は、震災後の活動を評価されて今年10月の全国大会で表彰を受けました

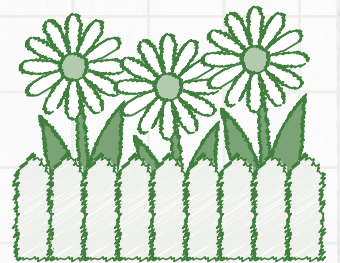
今月の
ひと

シニアパワーで地域を活性化する

井土地区で活動する老人クラブ

「何としても、会を存続させるんだ」強い意志で心をつなぐ

「早速ですが、復興公営住宅について新しい情報がありますのでお知らせします」と、老人クラブ井土寿会のお茶飲み会で加藤新一会長が話し始めました。この日、六郷市民センターに集まったのは18名、名取市や青葉区国見からの参加もみられます。皆さん、この日を楽しみにしていたことが、その笑顔からにじみ出ています。会長の加藤さんは、「昨年の震災後、すぐに役員会を開いて会員の安否確認に動きました。避難所から仮設住宅に移った段階で、会員をこのままバラバラにはいけないと思い、震災前のスケジュールを復活させて活動してきました」と語ります。井土地区に限らず、津波被災地域の老人クラブは会員の住まいがちりぢりになってしまったことから、その存続に赤信号が点^{とも}っていました。そんな中、何としても井土寿会を存続させようと、仙台市老人クラブ六郷地区老連と協力して、仮設住宅に花壇を設置するなど地域に密着した活動を通じて、会員相互の親睦と情報の共有をはかってきました。「老人クラブって言うけど、私達役員はその中の若手なんだから、じっとしてらんないよ。それにね、井土浜の人たちは、普段はそっけないけど、いざという時には力を合わせるんだ」と加藤さんが語るように、シニアパワーは地域のつながりに力を発揮しています。



2012

11月

昔は田舎に住むのがいやだったけど、 子どもをのびのびと育てるにはここが良いのかな

5月に誕生した眞彩^{まさい}ちゃんを抱いて、迎えてくれた角田明さん、さおりさんご夫妻。小学1年生の長男の隼^{はやと}くんと、11月で3歳になる次男の晃明^{あきあき}くん兄弟は広い家の中を元気に走り回ります。

角田さん一家は、昨年春に明さんの勤務先だった三重県から引越し、さおりさんの実家向かいに新築したマイホームに移り住む予定でした。しかし届いたばかりの荷を解き、入居の準備をしている最中に震災に見舞われました。明さんはまだ三重県で工作中。さおりさんは子どもたちと避難した東六郷小学校で、真新しい自宅に津波が押し寄せたことを知りました。それからしばらくは、荒町の親戚宅へ身を寄せ、現在は日辺グラウンド仮設住宅で暮らしています。

津波により被害のあった家は壁などを取り外し、泥出しをしていつでも修復できる状態にしていました。しかし、1年の間放置していたため傷みがひどくなり、家屋の保険や国の補助金を利用し、できる範囲での修復を決定しました。

隼くんは本来は東六郷小学校の新入生でしたが、現在は仮設住宅の学区である六郷小学校へ通っています。今後の通学のことや学校の存続可否を考えると、自宅を修復したものの、実際に移り住むかどうかは決めかねているとのこと。

「住むのは不便だけど、自然が多く環境的にはいい」と話すご夫婦。週末は子どもたちがのびのび過ごせる種次の自宅へ通い、荷物の整理をしています。

種次地区 角田さんご一家

こだわりを持って建てた新居。大きな窓の上部壁には角田さんのイニシャル“K”の飾りが付けられています

離れていても井土なんだと、 そこでつながる仲間をつくっていい

自宅のリフォームを進める大友雄一郎さん・いずみさんご夫妻。雄一郎さんは震災の犠牲となった父・征夫^{せいふ}さんの跡を継ぎ、昨年真宗大谷派^{まいらく}海楽寺の住職となりました。大破した本堂は手付かずです

が、庫裏は間もなくリフォームが完了します。この庫裏を井土地区の集会所として使ってもらいたいという雄一郎さん。

地区の公会堂が取り壊され、東六郷小学校が使用できない今、地域をつなぐ役割はお寺に求められていると考え

るご夫妻。「(地区の人については)戻ろうが戻るまいが、ここに集まる人になってもらいたい。どういう形であれ心でつながっていれば、それは地域と言えるんじゃないでしょうか。お盆、お彼岸の法要などのほかに、勉強会や趣味などの教室もしていきたい」と思いを語ってくれました。

一方「自宅リフォームの決断が子孫の代に果たしてよかったといえるのかどうか」と不安も口にする雄一郎さんですが、六郷中学校に通うご長男は「この地域が大好き」と言っているそうです。現在ご一家は泉区にお住まいですが、いずれは家族皆で現地へ戻る予定だと教えてくれました。

現在、井土に戻ってきている世帯は数軒。慶長三陸地震の津波後に現れた開拓者「井土七軒」になぞらえ、「平成の井土七軒」になる!と雄一郎さん

井土地区 大友さんご一家

東六郷の家と人びと訪問記

仙台東部道路から東に位置する東六郷地区。農業が盛んだったこの地も、津波による甚大な被害が及び壊滅状態となりました。あれから1年半が過ぎた現在、再びこの土地で暮らすことを決めた人、移転を考えている人、まだ決めかねている人、さまざまな思いが交錯しています。

コミュニティづくりに動く住民グループ

明日の三本塚を考える会

三本塚地区、東六郷地区の再生に向けて、住民を主体とするまちづくりを目指して活動する住民グループです。地区の状態調査や勉強会を行っています。→活動内容については「まちの語り場」各号をご覧ください。



東六郷移転推進協議会

種次^{しゅじ}中野地区にお住まいだった方々が中心となり、六郷地区への集団移転へ向けて活動しています。10月現在、移転先の区画割が済み、インフラの整備などについて話し合いを重ねています。今後は仙台市との協議をしながら、移転後の新しいコミュニティづくりを進めていく予定です。



昔みたいに仲間と助け合いながら、 楽しく気長に農業をやっていきたい

二木地区でも県道塩釜亘理線からほど近い場所にお住まいの大友和義さんご一家を訪ねました。震災後は、妻のかよ子さんとともに太白区に住む長男を頼り避難。当初は二木には戻らないつもりだったといいます。しかし、農業を続けようとの土地での再建を決意しました。

現在この地区に戻っている人はまだわずか。東六郷についての報道が少なく、インフラやほ場についての復旧復

興の情報も入りづらいことが、現地再建への歩みを鈍らせている要因ではと考えています。この先地区がどうなるのか不安を抱えながらも、10月からはお母さんのたつ子^{たつこ}さんを迎え3人の暮らしがはじまりました。

ふたき 二木地区 大友さんご一家



白い内壁とデッキがおしゃれなお住まい。隣には作業場が建つ予定です



9日(日) 内容盛りだくさん!
バーベキュー遠足 (青葉区大倉)



まだまだ夏を思わせる日差しの下、子どもたちは虫取りに、鬼ごっこにて会場中を駆け回ります。この日は、借り上げ民間賃貸住宅の住民グループ「若松会」のバーベキュー会。定義山観光や近くの農園での芋掘り体験なども行われ、大人も子どもも楽しめる賑やかな会となりました。

9日(日) 〆機嫌なりズムでノリノリ!
(卸町5丁目公園仮設住宅)



アメリカ陸軍のプラスバンドがやって来ましたよ〜。軽妙な日本語で紹介されるジャズやポップスのナンバーに、集まった皆さんは大盛り上がりでした。中にはアメリカ人女性と踊りだす方も!

9日(日) シェフランチで集おう
(六郷市民センター)



藤塚地区全体の皆さんを対象とした食事会が開かれました。東京や横浜の有名店シェフが腕をふるった料理の数々に、集まった皆さんは「初めて食べるものばかり、とても美味しいです!」と、懐かしい顔と再開した喜びが、お食事で倍増した様子でした。

12日(水) 大正琴練習会
(荒井小学校用地仮設住宅)



名古屋市の有志から支援された大正琴20台がずらり。大正琴のベテランも初心者も、楽譜を見ながら真剣そのものです。きっと近いうちに、お披露目する日がやってくる事でしょう。

13日(木) 出張上方落語の時間ですよ〜
(七郷中央公園仮設住宅)



朝のドラマでおなじみの桂よね吉さん、桂二乗さんが訪れたチャリティ落語会。落語で大笑いした後は、三味線や鳴り物を使った生の出囃子が披露され、興味津々の皆さんでした。

16日(日) 七郷を学び、海岸を清掃
(深沼海岸)



市内はもとより、滋賀県や神奈川県など、遠方からのボランティアさんが集まり深沼海岸の清掃活動が行われました。作業の前には七郷市民センターで七郷地区の歴史や震災前後の話聞く機会もあり、参加者の士気も高まりました。この日は砂さらいをして細かいガラス片やゴミを集めました。暑い中おつかれさまでした。

16日(日) 荒浜青空写真展 (荒浜)



青空の下、震災前後に撮影された写真パネルが並びます。荒浜にお住まいだった佐藤豊さんが、自宅敷地で開催した野外写真展です。「貞山堀で釣りをしていたことや、海岸を散歩したことを思い出した」と、偶然荒浜の自宅跡に訪れた方。現在は浄土寺の境内で展示中。荒浜の写真を募集しているそうです。

29日(土) いぐねおぢゃっこの会
(六郷市民センター)



毎回盛況、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方対象のお茶会。この日は、シンセサイザーの演奏や歌と合わせた軽体操で心と体をほぐし、顔なじみとの茶飲み話に花を咲かせました。

30日(日) 月が無くとも楽しい月見
(荒浜)



十五夜のこの日、荒浜では昼のお月見会が開かれました。その名も「荒浜のおめげつつあん(お名月様)」。荒浜再生を願う会主催のこのイベントでは、これまでお世話になったボランティアさんをはじめ、荒浜にゆかりの方々招待され、郷土料理のおかずかけや、手づくりのピザ釜で焼かれたピザが振舞われました。台風の通過が心配されたものの、十分すぎるほどの晴天に恵まれ、集う方々の笑顔があふれる素敵なおめげつつあんになりました。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶時々脱線しながらも、真剣な話し合いを続けるメンバー

10月15日(月)定例会議

- 清掃活動の報告
- 要望書について協議

当日の様子 10月14日(日)に、深沼海岸防波堤階段に溜まった砂を除去する作業をしました。参加者は少なかったですが、きれいになった階段は一般の方々にも喜ばれました。

また、仙台市へ提出する要望書の内容について協議しました。「しなやかな地域の復元と公共の福祉」をテーマにして、11月中に提出できるように話し合いを続ける事などを確認しました。

問い合わせ先:代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議:毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶女性部の佐藤まさ子代表から活動について説明がありました

10月5日(金)定例会議

- 市へ提出する要望書についての検討
- 女性部の活動報告

当日の様子 市へ提出する要望事項の内容について検討しました。●借地料免除期間の最短期間を30年にして欲しい●復興公営住宅の家賃について、せめて移転費用と同額を家賃免除にあてて欲しい●災害貸付金を1000万円まで増額して欲しい、などの要望を年内を目標に提出することが協議されました。また、女性部から4名が参加して、手仕事や趣味のサークル活動について報告がありました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においてください)
定例会議:毎週金曜日19:00~ サンピア2F 会議室4

読者からひとこと

● 借り上げ民間賃貸住宅で1人暮らしをしています。支えあいセンターのサロンなど、何かあればできるだけ出歩くように心がけています。夜に1人になると寂しくなるけど、人と会って話をしているときは楽しくて寂しさも忘れませぬ。

若林区/佐藤さん

● 少年野球の練習や友達との遊びで和田グラウンド(公園)にはよく遊びに来て。10月の秋季大会が俺の小学校最後の公式戦。1試合でも多く戦いたい。この前は市の選抜に選ばれてフル出場4番だった。今後は高砂中で野球をやる。

宮城野区/小野大介さん

● あすと長町仮設住宅の線路側に面した壁に描かれているイラストが、とても可愛くて気に入ってます。窓が描かれていたり、ひさしにも模様があったり、遊び心があって、見ていだけでウキウキしちゃう。うちは中の方なんだけど、描いてくれないかなぁ。

太白区/鈴木さん

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

9月20日(木) 「三本塚の復興についての第一次要望書」を市へ提出

- 三本塚町内会として要望書を提出

当日の様子 三本塚町内会の小野会長や役員、住民の方々市役所を訪問し、鈴木復興事業監へ要望書を手渡しました。1.現地再建にも地区内移転にも公平な支援を行うこと2.現地の安全を確保し、住みやすい環境に改善すること3.規模の大小に関わらず、専業も兼業も多様な農業経営ができる施策をつくり支援すること、この3項目について説明し東六郷地区の現状を訴えました。鈴木事業監からは「まちづくりは、市民が主体となって行政がサポートすることが基本です。仙台市として東部地域における施策の全体像を示しきれていないと考えており、浸水区域も含めた復興への具体的な取り組みについて早期に提示できるように進めていきたい」との説明がありました。

問い合わせ先:代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

被災地レポート

取材地

茶房「希望」(荒浜地区)

お客さんを楽しませる
姉弟が営む喫茶店

災害復旧工事のトラックが慌たたくしく行き交う県道塩釜亘理線のすぐそばに、ひっそりとたたずむ一軒の店があります。今年五月にオープンした茶房「希望」です。店主の関内祐子さんは、弟の佐藤喜美夫さんの自宅一階を店として、コーヒーや紅茶、軽食などを提供しています。陽気な関内さんの性格もあり、友人の家に招かれたようなアットホームで明るい雰囲気を感ぜさせます。「オー



茶房「希望」の外観。
営業時間は10:00～15:00、月曜日が定休です

ブン当初は落ち込んだ様子だった地元出身のお客さんが、何度もお店に足を運んでくれて、表情が明るくなっていったんです。お客さん方に「また来たい」と言ってもらえることが何よりうれしいですね」と、関内さんは顔をほころばせながら話します。

災害危険区域に指定されたこの地区では、住居を新築することができません。修繕して住むことはできませんが、多額の費用が掛かります。悩んだ末に自宅修繕を決意した佐藤さんはこう話します。「震災以前から数年に渡って介護してきた父(故・庄一郎さん)の葬儀をどうしても自宅で行いたかったんです」。弟の思いに共感した関内さんは、道路建設用地になる可能性があると思った上で、知り合いの大工さんに頼み込みました。「三、四年住めるだけでもいいから」と無理を言ってお願ひしたんです。その後、庄一郎さんは闘病の末、「希望」が開店して間もなく亡くなりました。



店内の様子。コーヒー、カフェオレはそれぞれ1杯200円で提供しています

荒浜に足を運ぶ人に
明日への希望を贈る

当初は自宅を修繕するだけで、店を開くつもりはなかったそうです。「このとおり、家の周りには何もないので、うちのトイレや水を使ってもらえればと思っただけです」と関内さん。改修工事中、休憩に訪れたボランティアの人たちに労いや感謝の気持ちを込めてパンやお菓子を提供していました。「そのうち、毎日訪れていた人が、申し訳ないからと言ってお金を置いていくようになり



お店の前で、姉の関内祐子さんと弟の佐藤喜美夫さん

ました。私としてはお互いボランティアとして受け取るつもりはなかったのですが、そういうこともあって、代金を受け取って営業した方がお互い気兼ねないと思い、お店をオープンしようと思いましたが、関内さんは話します。「店の名前は『希望』しか思い付きませんでした。震災によって荒浜は以前とは全く違う姿へと変わってしまったけれど、明日へ向かう希望だけは持ち続けたい、持ち続けてほしいという思いを込めたのです」

開店から四ヵ月半ほどが経過した九月末時点で、延べ千人のお客さんが訪れました。「お店という感覚がないんです。儲けるつもりなんてありませんから」と関内さんが言えば、「儲けるとかさそんなこと考えたら罰が当たりますよ」と佐藤さん。「希望」は、荒浜の復興を願う人々の憩いの場に確実になりつつあるようです。

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

コミュニティショップの「お茶会」

被災された方が働き、地域の方が安くお買い物できるコミュニティショップ「セカンドハンド仙台」がお茶会を開催します。地元のお話はもちろん、情報収集や情報交換など楽しく交流しませんか。参加無料、申込不要。

対象 借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方をはじめ、どなたでも参加できます

時 11月16日(金)10:00～12:00

場所 セカンドハンド仙台(若林区河原町1-4-6 庄司コーポ1階-A)

問 022-721-1195セカンドハンド仙台

だるまプロジェクトに参加しませんか

ボランティアグループ「若林ヘルプ」では、被災された方の就労支援「だるまプロジェクト」を行っています。この企画は、だるまづくりの基礎となる技術を習得していただいた後に販売用のだるまをつくり、売上の70%強を製作者にお支払いするものです。年齢・性別を問いませんので、少しでも興味のある方は是非だるまづくりに参加してください。

対象 仮設住宅(借り上げ民間賃貸住宅、社宅などを含む)にお住まいの方ならどなたでも

費用 無料(練習場所までの交通費は自己負担)※材料費などは南アルプス市若草町おこし協同組合から提供

時 11月22日(木)、23日(金・祝)13:00～16:00

場所 若林区河原町1-2-51 ワコースーパー河原町店2階

募集人数 2日間でのべ30名

申込方法 電話かEメールで参加希望者の住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレスをお伝えください

申込締切 11月15日(木)

注意事項 ①1日のみまたは両日、いずれでの参加も可能です
②練習の段階での報酬は支払われません

問・申 070-6496-0963 若林ヘルプ(高橋/月～金曜日13:00～19:00) Eメール:wakahelp.takahashi@gmail.com

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
第2回みやぶくサロン	塩釜市、七ヶ浜町、多賀城市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町、福島県で被災された方	11月8日(木)	10:00～12:00	若林区中央市民センター別棟	笑う門には福来るとお笑い講演とお茶飲み交流会	要(電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
折り紙&茶話会	台原コミュニティセンター周辺にお住まいの方ならどなたでも	11月15日(木)	10:00～12:00	台原コミュニティセンター	折り紙づくり(講師/折り紙コスモスグループ)	不要	支えあいセンター あおば 022-217-7234
体を動かそう	福島県から避難された方	11月15日(木)	10:00～12:00	泉区中央市民センター	皆で体を動かすサロン	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
お茶っこ交流会	宮城野区中央市民センター周辺にお住まいのみなし仮設の方	11月17日(土)	10:00～12:00	宮城野区中央市民センター	クリニカルアートで作る年賀状	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
び〜ちサロン	福島県から避難された乳幼児のいる世帯	11月28日(水)	10:00～12:00	富沢市民センター	同郷茶話会、アロマで「におい袋」作成、ハンドトリートメント(希望者)	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	開催日	時間	会場	内容	担当	問合先
母と子の健康相談	11月30日(金)★	13:30～14:30	若林区役所3階	育児の心配や母と子の健康についての相談 ★保健センターでの歯科相談は隔月で行います	保健師・栄養士 ★の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課 内線6772
	11月13日(火)	9:30～10:30	七郷保健センター			
	12月4日(火)★	9:30～10:30	六郷保健センター			
子どものこころの相談室	11月8日(木)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	
	11月29日(木)					
健康づくり講話	11月21日(水)	13:30～14:30	若林区役所3階	肩こり・腰痛がよくなる軽体操・ストレッチング	運動指導員	家庭健康課 内線6785
健康づくり相談		14:30～15:30		健康相談	保健師、栄養士、 歯科衛生士	
こころの健康相談	11月8日(木) 11月14日(水) 11月27日(火) 12月6日(木)	13:30～16:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、 精神保健福祉相談員、 保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時 (土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所 1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
高齢者総合相談	随時 (土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所 1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症高齢者の家族交流会	11月9日(金)	13:30～15:00	若林区役所3階 健康教育室	認知症の方を介護している家族の交流会	保健師など	
認知症の介護講座と相談会	12月8日(土)	講話：13:30～14:30 相談：14:30～16:00	若林区中央市民センター (別棟)第3会議室	講話：介護講話「家族が行う介護のポイント」 相談：相談会	「認知症の人と家族の会」 宮城県支部、保健師	

けんいんコラム

からだ編 食感のことば・・・
日本語は少ないの？多いの？

おせんべいを食べた時に「ぱりぱり」「サクサク」とお口の中でおいしい感覚が広がります。これが『食感』で、歯を支えているセンサーが感じとります。この食感はいろいろなことがばあわされますが、多くは擬音語や擬態語からなりオノマトペともいわれます。

世界のいろいろな国でこの食感のことばの数はどれくらいあるのでしょうか？料理で有名な国のフランス語で二百二十六語、中国語で百四十四語、ドイツ語が百五語、なんと英語は七十七語となっております。これらと比べると日本語は少ないのでしょうか？多いのでしょうか？なんと四百四十五語あり食感に関することばは非常に多いのです。驚きです！日本の生活のなかに食感が深く関わっていることがわかります。

甘み、塩み、苦み、酸っぱみ、うまみと味を感じますが、ただ味だけを感じている食事はおいしくありません。この五味に食感加わって初めておいしい！と感じます。まさに第六の味覚といえます。よく噛むことは食を豊かにします。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士 柏崎 潤

柏崎 潤 (かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯楽教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2		3		4	
5			6		E	
		7			8	9
		A				
10	11			12		
	13		14			
15			16		17	
B			C			
		18			19	D

タテのカギ

- ①これからの時期、漬け物や鍋に最適。「松島純二号」などの品種で知られ、地元を中心に消費される仙台〇〇〇〇
- ②宮城県が全国トップクラスの生産を誇る野菜で、仙台〇〇鍋の名で食されたりします
- ③スポーツなどで、次のシーズンのこと
- ④〇〇〇〇期は、農作業がひまな時期
- ⑦テレビや加湿器など、自宅で使う電気器具
- ⑨かつて八甲田やムーンライト仙台などの〇〇〇列車が走っていました
- ⑪日本古来の数学
- ⑫これから、おへそくを作る家庭も多いことでしょう。やがて〇〇〇祭で焼くのが、おなじみのならわし
- ⑭宮城県庁には、〇〇〇と暮らしの安全推進課があります
- ⑮種類が多々ありますが、仙台市に納めるのは、市民〇〇や固定資産〇〇など
- ⑰ことわざ。〇〇から出たまこと

ヨコのカギ

- ①江戸初期の仙台藩士、支倉常長。苗字の読みは？
- ④〇〇の養殖の北限にあたる三陸。11月から乾燥、加工が急ピッチに
- ⑤和の甘味の名物、鳴子温泉の〇〇だんご
- ⑥ひろせ号、わかば号などは、仙台市の〇〇〇図書館
- ⑦11月23日は〇〇の日。三陸を代表する冬の海の幸です
- ⑧〇〇の外といえば、部外者の立場に置かれること
- ⑩11月23日～25日、大崎市の〇〇〇山地域で、バルーンフェスティバルが開かれます
- ⑫白身で独特の見た目。〇〇〇汁はこれからが旬
- ⑬7月のリトルリーグ全国大会で、西山中の伊藤投手が6回を完全試合、しかも全打者から〇〇〇〇を奪って話題に
- ⑮ことわざ。〇〇は急げ
- ⑯野党の反対語
- ⑰ことわざ。笑う門には〇〇来たる
- ⑱自分の両親の母親

前回のこたえ

A イ B モ C ニ D カ E イ

でした。

1	オ	2	オ	3	イ	リ	4	ア	5	サ
6	オ	ト	ナ	7	ラ	イ	ン			
	タ		ホ	9	テ	イ	マ			
10	キ	11	ク	12	リ	13	ウ			
	14	レ	15	16	ニ	17	18	19	20	21
	シ	コ	18	ス	19	カ	20	21	モ	ド
	カ	マ	エ	21	モ	ド	リ			

編集後記

集会所で手仕事に熱中していると突然「アタッ、新幹線が走った!」の叫び声。振り向けば椅子の角に肘をぶつけさすっているAUさん。「ピリッと電気が走ったの、新幹線が走ったの!」(きくち)

お茶飲みサロンで出会った方が出品すると聞き福祉プラザの作品展へ。ずらりと並ぶ手芸品を見て思い出しました。そういえば初夏に始めた編みかけのコースターどこいったらう。(佐藤)

。。。お住まいを移転される方へ。。。

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp